

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 7日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009年度～2011年度

課題番号：21601008

研究課題名（和文）誰もが楽しめる博物館を創造する実践的研究－視覚障害者を対象とする体験型展示の試み

研究課題名（英文）How To Create A Universal Museum That All Can Enjoy: Focusing on an Experimental Exhibition For The Visually Handicapped

研究代表者

廣瀬 浩二郎（HIROSE KOJIRO）

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授

研究者番号：20342644

研究成果の概要（和文）：

本プロジェクトは、ユニバーサル・ミュージアム（誰もが楽しめる博物館）の具体像を模索する多様な研究活動を展開した。2011年10月にはプロジェクトの成果発表を目的とする公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践」を国立民族学博物館で行なった。吹田市立博物館の実験展示「さわる－五感の挑戦」（2009年・2010年）、特別展「さわる－みんなで楽しむ博物館」（2011年）の開催に当たっては、展示コンセプトの立案、資料選定などで協力した。

研究成果の概要（英文）：

This project has been engaged in various kinds of activities to create a universal museum that all can enjoy. In October 2011, we had a symposium “Theory and Practice of the Universal Museum: An Encouragement of Tactual Learning” at the National Museum of Ethnology. The Suita City Museum held a thematic exhibition “Touch: Exploring the New Field of Five Senses” both in 2009 and in 2010, and also a special exhibition “Touch: a Museum That All Can Enjoy” in 2011. Our project has played an important role to support these exhibitions in Suita.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：博物館学

キーワード：視覚障害者、ユニバーサルミュージアム、触覚、触学、触楽、触愕、感覚の多様性

1. 研究開始当初の背景

(1) 2006年に廣瀬が担当する企画展「さわる文字、さわる世界」が国立民族学博物館で開催される（日本におけるユニバーサル・ミュージアムをめざす実践的取

り組みの萌芽）。

(2) 2006年から5年間、小山が主導する実験展示「さわる－五感の挑戦」が吹田市立博物館で毎年実施される（ユニバーサル・ミュージアム研究の地道な継続）。

- (3) 2007年に広瀬編著『だれもが楽しめるユニバーサル・ミュージアム』（読書工房）が刊行される（単なる障害者対応、バリアフリーという発想でなく、博物館の新たな可能性を切り開く「ユニバーサル・ミュージアム」の国際的な潮流を日本に紹介）。
- (4) 2007年に廣瀬が慶応義塾大学で体験型ワークショップ「手学問のすゝめ」を企画・運営する（「ユニバーサル・デザイン」に対する社会的関心の広がり、「さわる展示」「触覚芸術」を求めるニーズの高まり）。

2. 研究の目的

- (1) 視覚障害者の日常的な触覚活用術を応用し、ユニバーサルな「さわる展示」のコンセプトを構築する。
- (2) 各地の博物館で研究会、ワークショップを積み重ね、「さわる展示」の意義を検証するとともに、実現までの課題を探る。
- (3) ユニバーサル・ミュージアムの実践事例を広く一般に紹介するシンポジウムを実施し、その成果報告書をまとめる。
- (4) 「博物館が社会を変える」というスローガンを掲げ、大学（高等教育）、観光（まちづくり）などの分野と連携し、「さわる展示」の有効性と普遍性を宣揚する。

3. 研究の方法

- (1) 各地の盲学校などの協力の下、視覚障害者の参加を呼びかけ、「さわって創る」陶芸ワークショップを行なった（2010年1月、2010年6月、2011年7月）。
- (2) 「さわる展示」の意義と課題について、全国の研究協力者を交え議論を繰り返した（2010年3月、2011年3月、2012年3月）。
- (3) 日本博物館協会、全日本博物館学会、日本ミュージアム・マネジメント学会の後援を得て、国立民族学博物館において公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践—博物館から始まる『手学問のすゝめ』」を実施した（2011年10月）。
- (4) 大学における障害学生支援、観光のユニバーサル・デザイン化をテーマとする公開講演会、座談会を主催した（2010年3月、2012年3月）。

4. 研究成果

- (1) 「さわって創る」陶芸ワークショップで制作された作品は吹田市立博物館（2010年6月・2011年9月）、青森県立美術館（2011年11月）、滋賀県立陶芸の森（2011年12月）などで

展示され、好評を博した（→巡回展の開催を視野に入れた作品の継続的収集が必要である）。

- (2) 「さわる展示」の意義と課題に関する本プロジェクトの議論を参考として、12年3月に国立民族学博物館のインフォメーション・ゾーンに「世界をさわる—感じて広がる」コーナーが新設された（→民博の「さわる展示」常設化は先駆的な試みであり、今後のユニバーサル・ミュージアム研究の拠点となることが期待される）。
- (3) 本プロジェクトの成果報告書として廣瀬編著の単行本『さわって楽しむ博物館—ユニバーサル・ミュージアムの可能性』（青弓社）が2012年5月に刊行された（→「視覚障害者からの発信」（from the blind）の理念に立脚する本書は、世界的にも類例のないユニークなユニバーサル・ミュージアムの研究書と位置づけることができる）。
- (4) 本プロジェクトを発展させる形で、12年秋には幅広い分野の専門家を結集し、「触文化に関する人類学的研究」に取り組む共同研究会を組織する予定である（→博物館をベースとしつつ、アート・福祉・教育学・心理学・建築学などを結びつける本格的なユニバーサル・ミュージアム研究に着手する）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計45件）

- ① 広瀬浩二郎、触る文化への招待、NHK サービスセンター編『ラジオ深夜便—ないとエッセー』、pp.81-93、2012。（査読無）
- ② 広瀬浩二郎、陽光と暗闇の交錯—上海万博『障害者館』探訪記、中牧弘允編『上海万博の経営人類学的研究』、pp.179-184、2012、（査読無）
- ③ 五月女賢司、さまざまな利用者がアクセス可能な博物館を目指して、『ミュゼ』、99:22-23、2012、（査読無）
- ④ 広瀬浩二郎、「人に優しい博物館」から「誰もが楽しめる博物館」へ、障害者問題資料センターりぼん社編『そよ風のように街に出よう』、81:24-29、2011、（査読無）
- ⑤ 五月女賢司、特別寄稿—博物館のモノと人にふれる（活字版）、『点字毎日』、689:20、2011、（査読無）
- ⑥ 広瀬浩二郎、4しょく会の過去・現在・未来、視覚障害者文化を育てる、会編『SHOKU』、11:5-19、2011、（査読無）
- ⑦ 広瀬浩二郎、博物館から始まる「手

学問のすゝめ」、『平成 23 年度 (2011 年度) 秋季特別展 さわる—みんなで楽しむ博物館—』、pp.14-17、2011、(査読無)

- ⑧ 広瀬浩二郎、『壁』を崩せ、『月刊みんなぱく』、35(3) : 14-15、2011、(査読無)
- ⑨ 広瀬浩二郎、五感の展示 さわる感動、『日本経済新聞』2010 年 12 月 7 日朝刊 40 面、(査読無)
- ⑩ 小山修三、博物館の現在 「触る展示」推進を、『中日新聞』2010 年 11 月 5 日夕刊 11 面、(査読無)
- ⑪ 小山修三、博物館と「さわる」、『月刊みんなぱく』、34(10) : 16-17、2010、(査読無)
- ⑫ 五月女賢司、モトモト博物館でテクテク体験、『吹田市立博物館だより』、42 : 6、2010、(査読無)
- ⑬ 広瀬浩二郎、『闇の聖地』で、音に触る、『月刊みんなぱく』、34(12) : 16-17、2010、(査読無)
- ⑭ 広瀬浩二郎、実験展示の回顧と展望、『吹田市立博物館だより』、42 : 1、2010、(査読無)
- ⑮ 広瀬浩二郎、『障害』から生まれた二つの文化論、郵政事業(株)近畿支社人権啓発室編『ひびき』、9 : 1-4、2010、(査読無)
- ⑯ 広瀬浩二郎、“点字力”の可能性—多文化共生社会における点字の役割、『社会言語科学』、13(1) : 70-80、2010、(査読有)
- ⑰ Kojiro Hirose、The Richness of Touch: The Paradoxical Meanings of Disability in Japanese Culture、*THE EAST ASIAN LIBRARY JOURNAL*、13(2) : 59-85、2010、(査読有)
- ⑱ 広瀬浩二郎、フィーリングワーク入門—感覚の多様性を呼び覚まそう、『世界思想』、37 : 1-4、2010、(査読無)
- ⑲ 小山修三、'07EXPO' 70—わたしと万博展：市民と博物館、『吹田市立博物館館報』、9 : 33-40、2009、(査読無)
- ⑳ 広瀬浩二郎、四つのキーワードで探る『見えないからこそできること』、土橋圭子他編『特別支援教育の基礎』、東京書籍、pp.324-325、査読無、2009

[学会発表] (計 64 件)

- ① 広瀬浩二郎、ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践、関西博物館研究会主催講演会、大阪市中央公会堂 (大阪府)、2011. 11. 15.
- ② 五月女賢司、「触る展示」の回顧と展望、国立民族学博物館公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践」、国立民族学博物館 (大阪府)、2011. 10. 30.
- ③ 広瀬浩二郎、フィーリングワーク入門—

—触学・触楽・触愕の体験的博物館論、国立民族学博物館公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践」、国立民族学博物館 (大阪府)、2011. 10. 30.

- ④ 小山修三、壁を壊せ—縄文人、アボリジニ、そして視覚障害者、国立民族学博物館公開シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムの理論と実践」、国立民族学博物館 (大阪府)、2011. 10. 29.
- ⑤ 五月女賢司、さわる展にふれる—博物館のモノをさわるとのこと—、吹田市立博物館講座、吹田市立博物館 (大阪府)、2011. 9. 10.
- ⑥ 広瀬浩二郎、ユニバーサル・ミュージアムの試み、第 27 回韓国視覚障害教育・再活学会学術大会、韓国・太田市、2011. 8. 5.
- ⑦ 広瀬浩二郎、ユニバーサル・ミュージアムとは何か、南山大学「博物館実習」特別講義、南山大学 (愛知県)、2011. 7. 7.
- ⑧ 五月女賢司、新たな博物館への期待—博物館関係者から—、国際博物館の日記念「大阪市博物館フォーラム 2010 新たな可能性を求めて」、大阪歴史博物館 (大阪府)、2011. 5. 16.
- ⑨ 小山修三、ユニバーサル・ミュージアムを掘る—誰もが楽しめる博物館の創造をめざして、国立民族学博物館研究懇談会、国立民族学博物館 (大阪府)、2011. 2. 23.
- ⑩ 広瀬浩二郎、見常者と触常者、視覚障害リハビリテーション研究大会、中部大学 (愛知県)、2010. 9. 26.
- ⑪ 広瀬浩二郎、『さわってみる』点字学事始めユニバーサルデザイン天文教育研究会、国立天文台 (東京都)、2010. 6. 6.
- ⑫ 小山修三、視覚障害：もう一つの異文化、科学研究費補助金プロジェクト「誰もが楽しめる博物館を創造する実践的研究」主催講演会、国立民族学博物館 (大阪府)、2010. 3. 5.
- ⑬ 広瀬浩二郎、医療と福祉をつなぐフィーリングワーク、大分大学主催講演会、大分大学医学部 (大分県)、2010. 2. 26.
- ⑭ 広瀬浩二郎、誰もが楽しめる博物館を創造するために、科学研究費補助金プロジェクト「誰もが楽しめる博物館を創造する実践的研究」主催講演会、三内丸山遺跡・縄文自遊館 (青森県)、2010. 1. 30.
- ⑮ 広瀬浩二郎、五感発見、暗闇探検、キッズプラザ大阪主催ワークショップ、キッズプラザ大阪 (大阪府)、2009. 12. 5.
- ⑯ 広瀬浩二郎、点字の宇宙 国際シンポジウム「点字力の可能性—21 世紀の新たなルイ・ブライユ像を求めて」、国立民族学博物館 (大阪府)、2009. 11. 22.
- ⑰ 広瀬浩二郎、博物館のバリアフリーについて、平成 21 年度博物館学集中コース、国立民族学博物館 (大阪府)、2009. 10. 19.

- ⑱ 広瀬浩二郎、さわる文化への招待、吹田市立博物館主催講演会、吹田市立博物館（大阪府）、2009. 10. 4.
- ⑲ 広瀬浩二郎、さわる文化への招待、日本福祉大学主催特別講義、日本福祉大学国際福祉開発学部（愛知県）、2009. 6. 12.

〔図書〕（計9件）

- ① 広瀬浩二郎編著、青弓社、『さわって楽しむ博物館』 2012、256頁。
- ② 五月女賢司編著、吹田市立博物館、『平成23年度（2011年度）秋季特別展 さわる—みんなで楽しむ博物館—』、2011、22頁。
- ③ 広瀬浩二郎、世界思想社、『さわる文化への招待—触覚でみる手学問のすすめ』、2009、208頁。

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/21601008>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣瀬 浩二郎 (HIROSE KOJIRO)

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授
研究者番号：20342644

(2) 研究分担者

小山 修三 (KOYAMA SHUZO)

国立民族学博物館・名誉教授
研究者番号：70111086

五月女 賢司 (SAOTOMOE KENJI)

国立民族学博物館・外来研究員
研究者番号：30535571

(3) 連携研究者

なし